



平成26年10月30日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 信元 久隆
 (コード番号 7238 東証第一部)
 問合せ先 経理部長 岡田 拓信
 (TEL. 048-560-1501)

平成27年3月期第2四半期(累計)期間及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成26年5月7日に公表いたしました平成27年3月期業績予想の修正について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想修正の内容

平成27年3月期第2四半期(累計)期間 連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成26年9月30日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	122,000	5,200	4,500	2,000	15円04銭
今回修正予想(B)	123,100	3,700	3,400	900	6円77銭
増減額(B-A)	+1,100	△1,500	△1,100	△1,100	—
増減率(%)	+0.9	△28.8	△24.4	△55.0	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年3月期第2四半期)	116,376	3,220	2,957	958	7円22銭

平成27年3月期 通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	243,000	11,000	9,500	4,000	30円08銭
今回修正予想(B)	251,400	6,000	5,600	600	4円51銭
増減額(B-A)	+8,400	△5,000	△3,900	△3,400	—
増減率(%)	+3.5	△45.5	△41.1	△85.0	—
(ご参考)前期実績(平成26年3月期)	236,665	8,084	7,269	2,423	18円24銭

2. 修正の理由

第2四半期(累計)期間:売上高は前回予想と比べ若干上回る見込みですが、営業利益、経常利益、四半期純利益は大幅に前回予想を下回る見込みとなりました。営業利益面での主な要因は、北米の主力工場Akebono Brake, Elizabethtown Plant (ABE Plant:ケンタッキー州)においての、第1四半期の棚卸し誤差による在庫ロスに加え、受注増加・モデルチェンジによってディスクブレーキ一部ラインの生産負荷が高くなった等の混乱により、エキストラコストが発生したことによります。四半期純利益は、曙ブレーキ山陽製造(株)の完全子会社化に伴う減損損失等を計上したことや繰延税金資産の一部を取崩したことにより前回予想を下回る見込みとなりました。

通期: ABE Plantにおいては、第3四半期以降も、主に米系完成車メーカーの大幅な増産対応および新規受注製品の立上げの時期が集中したことにより、ディスクブレーキの生産ラインの負荷が想定をはるかに超える状態となりました。このため大幅に生産人員を増強し、生産の遅れについては一部空輸等の緊急の輸送手段をとらざるを得なくなり、これら対策費用がかさんだ結果、北米地域セグメントが営業損失計上の見込みとなりました。これにより前回予想を大きく下回る見込みとなったため、第2四半期累計期間と併せて通期の業績予想の修正を行うものであります。既に対応策を講じており、徐々にその成果が出始めております。完成車メーカーの信頼も回復してきており、今後の増産に備えてまいります。

通期の業績修正にいたった理由は以下のとおりです。

北米

● 米国：

第3四半期以降も、主として米系完成車メーカーからの受注が大幅に増加したことにより、特にABE Plantにおいてディスクブレーキの生産量が急激に増加し、新型へのモデルチェンジ・新規受注製品の立上げ（ABC全体で60アイテム）が集中したことと重なり、ディスクブレーキ生産ラインの負荷が過度に高くなり、3直7日（週7日、1日24時間体制）のフル稼働で対応せざるを得なくなりました。これに起因して、設備保全時間が確保できない状況に陥り、設備故障による頻発停止、設備稼働率の低下を招きました。そのような状況下で品質・納期厳守を最優先に生産をいたしましたが、結果として、人員増強および残業・休日出勤により労務費が大幅に増加しました。加えて不良率増加によるスクラップ費用増加や、生産ラインの一時的な停止による緊急輸送（空輸の併用）での出荷対応など、生産性悪化による損失が発生しております。以下の緊急対策を実行しておりますが、結果として前回予想を大幅に下回り、営業損失計上となる見込みとなりました。

現在ABE Plantで進めている施策として、

（1）今年12月末までに完了する施策

ABE Plantの生産負荷を軽減するための他生産拠点への生産移管、日本からの設備保全支援等グループ丸となって対応しております。3直7日稼働は当面継続せざるを得ないものの、日本からの支援等人的リソースの投入及び設備の追加により現時点で生産ラインの負荷は緩和されてきており、今年12月までには3直7日稼働で必要生産数を確保出来るようになり、緊急輸送にかかるエクストラコストの発生はなくなる見込みです。

（2）来年（平成27年）前半までかかる施策

他生産拠点への生産移管の定着および来年年初より更にディスクブレーキ製造設備の増強を図り、来年7月に昨年度までの生産体制である3直6日稼働に戻し、休日残業代の削減、スクラップの削減を行い、利益の出せる生産体制に戻していきます。

このABE Plantの生産問題は当社グループの最優先の経営課題として捉え、日本を含め経営リソースを最大限投入し、一日も早く生産体制の正常化を図ります。

今期の北米事業は営業損失の見込みですが、今回の生産問題はあくまでも一過性のものであります。来期以降の米国事業については、全体として受注数も計画以上のものを確保しており、第1四半期には多少の混乱は残る可能性はありますが、それ以降は回復軌道にのせ、黒字化を定着するようにいたします。

尚、ABE Plant 以外（米国本社（ミシガン州）、Glasgow Plant（ケンタッキー州）、Clarksville Plant（テネシー州）、Columbia Plant（サウスカロライナ州））については、概ね前回予想どおりになる見込みです。

● メキシコ：

予定生産量に達せず、売上高が減少したことにより営業損失が多少拡大する見込みであります。本プラントでは、今だ先行投資の段階でもあり、来年の新規製品の立上げに向けて教育訓練も含め、生産準備に万全の体制で進めていきます。

その他 地域

● 日本

上期については、エネルギーコスト増により前回予想営業利益より若干下回りましたが、下期については、計画通りになる見込みです。

● 欧州

スロバキア工場の立上げ準備、新規プロジェクトの費用等がかさみ、前回予想を下回る見込みです

● アジア

- ・中国については、受注増加により前回計画を上回る見込みです。
- ・タイについては、政情不安が継続し自動車産業低迷に呼応して、前回予想を若干下回る見込みです。
- ・インドネシアについては、下期に完成車メーカーの在庫調整により受注減少、原材料市況高により前回予想を下回る見込みです。

参考：【地域別の第2四半期（累計）期間業績予想】

（単位：百万円、％）

	売上高					営業利益				
	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響
日本	43,600	43,400	△ 200	△0.5%	—	1,900	1,600	△ 300	△15.8%	—
北米	64,200	66,400	2,200	3.4%	1,450	1,200	80	△ 1,120	△93.3%	10
欧州	4,900	4,200	△ 700	△14.3%	△ 40	△ 100	△ 220	△ 120	—	0
中国	6,300	6,400	100	1.6%	60	700	830	130	18.6%	10
タイ	2,700	2,600	△ 100	△3.7%	30	100	130	30	30.0%	0
インドネシア	8,500	8,400	△ 100	△1.2%	△ 190	1,300	1,100	△ 200	△15.4%	△ 30
連結消去	△ 8,200	△ 8,300	△ 100	—	—	100	180	80	—	—
連結計	122,000	123,100	1,100	0.9%	1,310	5,200	3,700	△ 1,500	△28.8%	△ 10

※北米営業利益内訳：（前回）米国1,300、メキシコ△100 （今回）米国300、メキシコ△220

為替レート（前提）	USD	EUR	CNY	THB	IDR
前回予想	100.0円	140.0円	16.4円	3.1円	0.0090円
今回予想	102.2円	138.6円	16.5円	3.1円	0.0088円

【地域別の通期業績予想】

（単位：百万円、％）

	売上高					営業利益				
	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響	前回予想	今回予想	増減	増減率	為替影響
日本	86,700	86,600	△ 100	△0.1%	—	4,500	4,400	△ 100	△2.2%	—
北米	126,000	135,500	9,500	7.5%	6,200	2,100	△ 2,100	△4,200	—	△ 90
欧州	10,300	9,500	△ 800	△7.8%	△ 70	△ 200	△ 600	△ 400	—	0
中国	13,900	14,400	500	3.6%	500	1,400	1,700	300	21.4%	60
タイ	5,700	5,400	△ 300	△5.3%	240	400	300	△ 100	△25.0%	10
インドネシア	17,100	16,600	△ 500	△2.9%	△ 190	2,600	2,100	△ 500	△19.2%	△ 20
連結消去	△ 16,700	△ 16,600	100	—	—	200	200	—	—	—
連結計	243,000	251,400	8,400	3.5%	6,680	11,000	6,000	△ 5,000	△45.5%	△ 40

※北米営業利益内訳：（前回）米国2,400、メキシコ△300 （今回）米国△1,600、メキシコ△500

為替レート（前提）	USD	EUR	CNY	THB	IDR
前回予想	100.0円	140.0円	16.4円	3.1円	0.0090円
今回予想	104.8円	138.7円	17.0円	3.2円	0.0089円

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以上